



## Simple 健康カルテ

File No.7

## 「乳がん検診について」

さて、前回お話ししたように、乳がんは他の癌と比べると40歳代、50歳代での発症が多いことがわけて特徴的です。また、早期発見すれば治療が望めることも、これからお話しするがん検診においては重要なポイントです。

## 【そもそもがん検診って何？】

検診と聞いてどのようなものか、浮かべられてはいかがでしょうか。

40歳以上の方や20歳以上の女性であれば自治体から郵送されてくる「がん検診のお知らせ」をまず思い返してください。「がん検診のお知らせ」をまず思い返してください。「がん検診のお知らせ」をまず思い返してください。「がん検診のお知らせ」をまず思い返してください。

一方で、「親戚にがんの患者がいて、とても心配だから自費で人間ドックを受けたのよ。」なんて話も聞いたことはありませんか。

## 【対策型がん検診】

自治体、国が事業としてがんの検診を行うのは、「対策型がん検診」に分類され、公共的な予防と行っています。我々の税金で行う事業ですから、

①ある集団が検診受けることでそのがんを早期に発見ができることが証明されている。  
②そのがんは早期に発見することで、死亡率が低下することも証明されている。

③利益（死亡率低下効果）が、※不利益費用（検診による害）を上回る。 ※後述

といったことが前提となるのです。

我が国において死亡率が低下し、検診の利益が不利益を上回ると考えられているがん検診は、①胃がん②子宮頸がん③肺がん④

乳がん⑤大腸がん の5つの検診です。

## 【任意型がん検診】

「任意型がん検診」は、あくまでも個人で判断して検診の受診を決めるものです。「人間ドック」等がこれにあたります。これらの検診の中には、リスクとベネフィットのバランスがよく分かっていないものもある事は注意が必要です。受検者自身が利益不利益をよく考えて受ける必要があります。

## 【乳がん検診のしくみ】

現在乳がん検診対策型検診は40歳以上の女性を対象としており、2年に一度の受診が推奨されています。前号で言及した乳がんの危険因子をいくつも持つ方は、任意検診として30歳代であっても検診を検討されてもいいでしょう。

検診方法は、診察（問診視診）とマンモグラフィ（乳房専用のレントゲン撮影検査）を併用します。

マンモグラフィ検査は、乳房を圧迫し薄く延ばして撮影するため若干の痛みを伴うこともありますが、被ばくを軽減し検査の精度を上げるため大切なことです。

最近では、女性医師・女性検査技師による検診を実施している施設も多くなっています。

## 【乳がん検診の不利益とは】

マンモグラフィはレントゲン検査ですから放射線被曝がありますが、自然から受ける放射線と比較しても軽微であり発痛のリスクはないと考えられています。

検診を受けた方の乳がんを見逃す「偽陰性」や、実際に乳がんではないのに要精密検査を指示される「偽陽性」(この間、患者さん

は精神的不安にさらされます。)、本来寿命に影響を及ぼさないかもしれない乳がんを発見治療してしまう「過剰診断過剰治療」の問題も指摘されています。

以上のような想定される不利益を差し引いても40歳以上の女性、30歳代であってもリスクの多い方は検診による利益つまり乳がんが死亡する人を減少させる効果が大きいと考えられています。

## 【乳がん検診の成績は】

乳がん検診を受けることで、受けないグループと比較して乳がんによる死亡率は20%程度低下するとされています。特に50歳以上の場合はその差は顕著です。逆に若い年代の方の場合はその差が小さくなることから今後は超音波検査の併用なども考えられるでしょう。

乳がん検診を受けると約8%の方が「要精密検査」ということになり、最終的には0.3%の方乳がんが見つかることとされています。

## 【乳房のセルフチェック】

以上のように、検診でのチェックは非常に有用ですが、検診の間の期間にがんが見つかることも稀ではありません。乳房のはり、ふくらみ、硬さ、痛み、乳頭からの血液の混じった分泌物の有無等をセルフチェックされることをお勧めいたします。月一回のセルフチェックを習慣にしてください。

検診を受ければ全ての乳がんを防げるわけではありませんが早期発見できる検診を是非有効活用して下さい。

Simple  
×  
町のお医者さん